

製品名: EAG1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87326**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	Calculated MW:111 kDa; Observed MW:111 kDa

抗原情報

遺伝子名	EAG1
別名	EAG; EAG1; ZLS1; hEAG; TMBTS; h-eag; hEAG1; Kv10.1
遺伝子 ID	3756
SwissProt ID	O95259
免疫原	ヒト EAG1 の合成ペプチド

背景

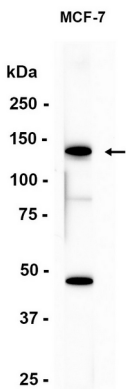
電位依存性カリウム (Kv) チャンネルは、機能的および構造的観点から、電位依存性イオンチャンネルの中で最も複雑なクラスに属しま

す。その多様な機能には、神経伝達物質の放出、心拍数、インスリン分泌、神経細胞の興奮性、上皮細胞の電解質輸送、平滑筋の収縮、細胞容積の調節が含まれます。この遺伝子は、電位依存性カリウムチャンネルサブファミリー H のメンバーをコードしています。このメンバーは、電位依存性非活性化遅延整流性カリウムチャンネルの孔形成 (α) サブユニットです。筋芽細胞分化の開始時に活性化されます。この遺伝子は脳および筋芽細胞で高発現しています。この遺伝子の過剰発現は、癌細胞の増殖に有利に作用し、腫瘍細胞の増殖を促進する可能性があります。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



EAG1 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した MCF-7 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。